

令和7年12月7日(日)町中央公民館において、大崎町人権フェスタ2025が開催されました。開会行事の中では、町内小学5・6年生から募集した人権作文と、中学生から募集した人権標語の最優秀作品について表彰がおこなわれました。人権作文については、児童による朗読がおこなわれ、大勢の観客の前で、自分の意見を堂々と発表する姿に、会場からは大きな拍手が送られました。

開会行事後は、「ワクワク生きよう！人生は冒険だ。」という演題で、走る冒險家、岩元みさ様による講演がおこなわれました。イランシルクロードウルトラマラソン等の海外の過酷な環境下でおこなわれるレースへの出場、北海道から鹿児島までを走破した日本縦断時の体験談等をお話ししていただき、受講者から「人生は、何度も、いつからでも、やり直せるし、チャレンジも大切なことだと思いました。」「人とつながることで自分の成長や思いやりの心がより大きくなれそうです。」などの感想をいただきました。本年6月には、南米アマゾンジャングルマラソン230kmに挑戦するとのことです。是非、成功させてまた多くの人に勇気を与えていただきたいと思います。

人権フェスタ2025

人生何が起きるかわからない でもきっと、だからこそいいんだ。

人権作文 最優秀賞 (二点)

みんなが笑顔で
過ごせるために

大崎小学校 五年
外西 晃大

「お前、沖永良部に帰れよ。」

友達の顔は笑っている。ぼくも、「いつものじょう談か。」と笑ってしまった。でも、その言葉が胸にささつたまま消えなかつた。心がざわざわして、泣きたい気持ちになつた。

ぼくは、両親の転きんで大崎町から沖永良部に引っ越し、三年間過ごした。きれいな海に囲まれ、たくさんの中間がいるぼくの大切な場所だ。そんな大切な場所をきづつけられたようを感じた。

家に帰って、そのことを家族に話した。

「沖永良部を馬鹿にされた気分になる。」

兄弟が口をそろえておこつていた。ぼくと同じ気持ちになってくれたことが、ぼくの気持ちを軽くしてくれた。その横から母が、「その友達は、言葉の使い方

を知らないのかもね。」
そして、ぼくを見つめながらこう続けた。

「こう大も氣を付けないと。
最近、言葉がらん暴だよ。」
ぼくは、どきっとした。つい先日、兄のことを「お前」と

よんで母に注意されたばかりだったからだ。ゲームで負け

てくれやしくて、けんかになり、つい出した言葉だった。「あ、友

達と一緒にだ。」ぼくのことをき

づけようとしているのでは

ないと分かつていて、思い

つきの言葉で深い意味はない

だろう。しかし、言葉の意味

を決めるのは言われた人の

だ。友達にそのつもりはなく

ても、ぼくはきずついた。そ

して、以前、道徳の時間に先

生が言っていた言葉を思い出

した。

「友達を大切にするということとは、その人の背景も全部大事にすることです。」

出身地や家族、思い出など

のことを少しでも知ってくれる。相手のことを知ることで、相手の気持ちや立場を考え、温かい言葉を伝えることができる。ぼくも思いやりの心をもつて、言葉を大切に使えるよう、そんな人になりたい。

家族や友達、みんなが笑顔で過ごせるように。

兄弟だと相手が大切にしているものはすぐに分かるし、すべてを尊重することが大切なのだ。

兄弟だと相手が大切にして、いるものはすぐに分かるし、家族や友達、みんなが笑顔で過ごせるようになります。

